

富士見市防災環境カルテ

関沢3丁目東
関沢3丁目西

町会

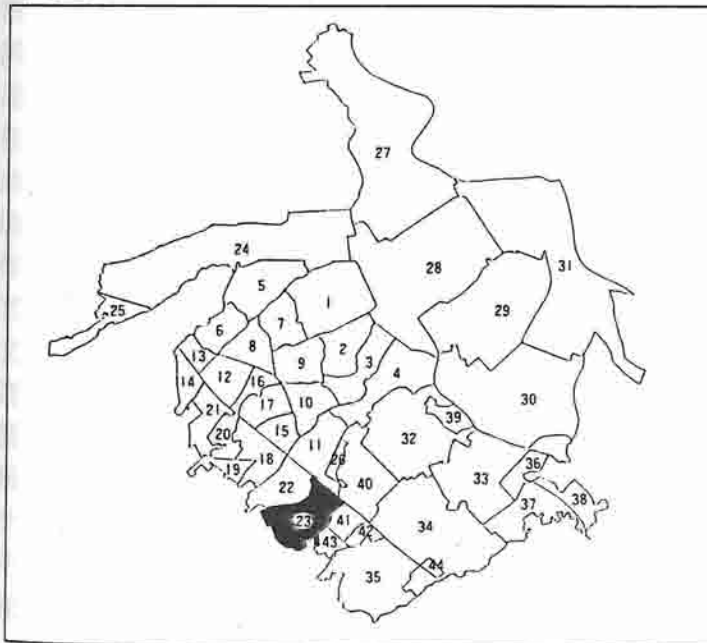
位置番号 23

概況

関沢3丁目東町会、関沢3丁目西町会は、富士見市の西部に位置し、富士見江川と唐沢堀沿いに狭い低地（谷底平野）と浅い谷（浸食凹地）が、また、富士見江川と唐沢堀の右岸に緩い斜面〔段丘崖（緩）〕が見られる複雑な地形で形成されている。富士見江川沿いの緩い斜面には関沢集会所、唐沢堀沿いには市立第四保育所、児童館、東側の台地には関沢児童公園、そして、南側の台地には関沢小学校があり、それぞれ避難所に指定されている。台地や盛土された低地、浅い谷は宅地化され、住宅が密集化している。水害は、富士見江川、唐沢堀の改修工事が進み発生は少ない。

地震災害は、木造建物密集地で火災が発生した場合、延焼の危険性がやや高いと予想される。

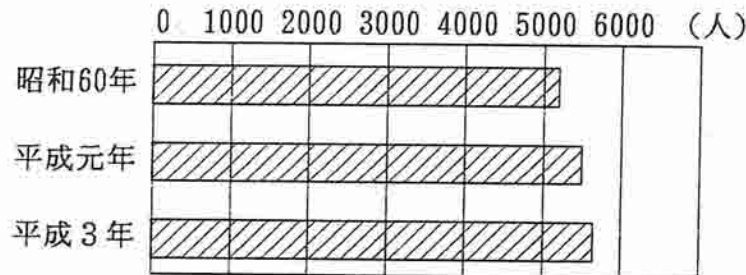
位置図



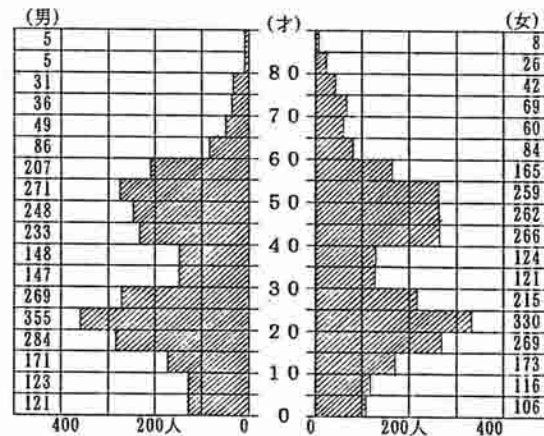
1. 基礎指標

・面積	0.357 km ²
・人口(平成3年10月1日現在) 男	2,846人
女	2,735人
計	5,581人
・人口密度	15,633.1人/km ²
・寝たきり老人数	6人
・ひとり暮らし老人数	21人
・世帯数	1,924世帯

人口推移



年齢別人口(平成3年)



・商住工混在率住居系	96.75%
店舗系	1.8%
工業系	1.45%

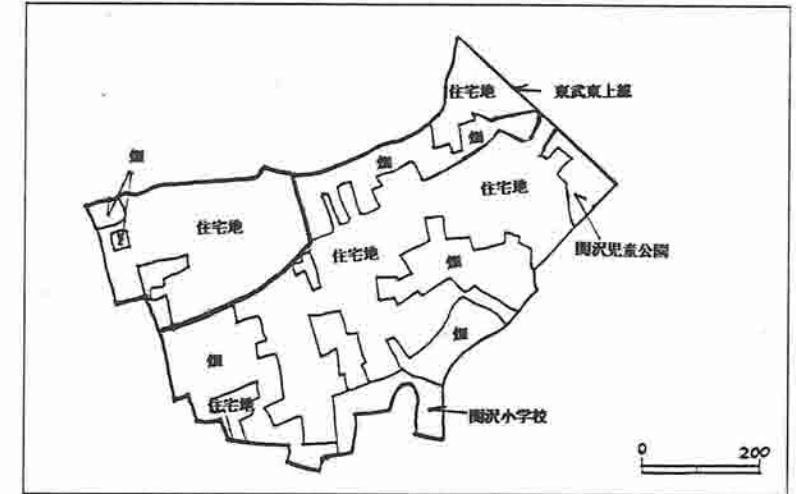
富士見市防災環境カルテ

関沢3丁目東
関沢3丁目西

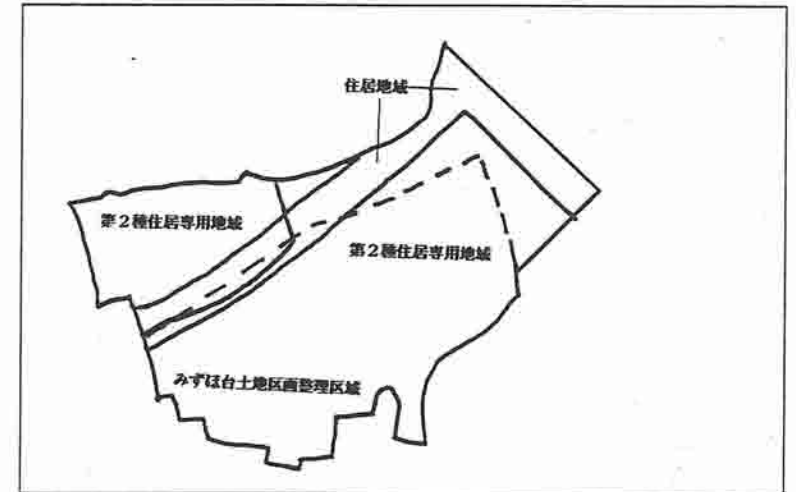
町会

位置番号 23

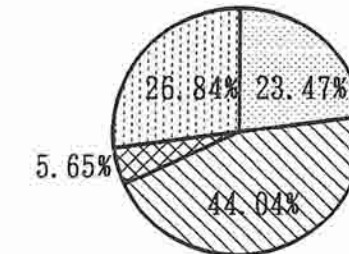
町会現況図



用途地域図



土地利用現況



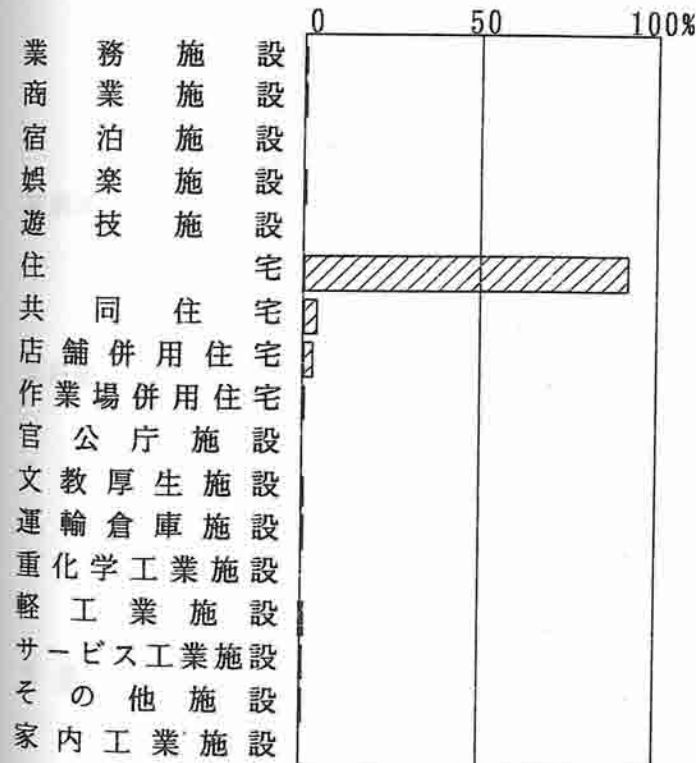
土地利用凡例

- 農地
- 山林・原野
- 市街地(宅地)
- 空地
- その他

2. 建物指標

・建物棟数	1,808棟	
木造建物	1,648棟	
非木造建物	160棟	
・建物面積	67,715.20㎡	
木造建物	56,691.20㎡	
非木造建物	11,024.00㎡	
※建物面積は1階の面積		
・住宅率	92.9%	
・木造率	91.2% (1,648棟)	
・昭和34年以前の木造家屋実棟数	10棟	
・同上率	0.6%	
・建物階層別現況(木造建物)		
1階	260棟	15.7%
2階以上	1,388棟	84.2%

・建物用途別現況



3. 道路空地指標

・道路率	70本	196.1本/㎢
・幹線道路率	1本	2.8本/㎢
・公共空地面積	24,055.7㎡	
・公共空地率	14.8%	
・1人あたり公共空地	4.3㎡/人	
・公共空地内容(*指定避難所)		
名称	面積	
1. 高校	0㎡	
2. 中学校	0㎡	
3. 関沢小学校*	21,354.9㎡	
4. 関沢公園*	1,201.0㎡	
5. 関沢児童館*	1,499.8㎡	

4. 消防指標

所轄消防署	入間東部地区消防組合富士見消防署 応援協定 所沢市、川越地区消防組合、 新座市、志木市各消防本部
・消火栓本数	38本
・1消火栓あたり世帯数	50.6世帯/本
・消防水利貯水施設数	5 (0) か所 () 内は容量40トン以上の施設数
・消防団機械器具置場	0

5. 危険物指標

・給油取扱所	0か所
・一般取扱所	0か所
・屋内・屋外(タンク)貯蔵所	0か所
・地下タンク貯蔵所	0か所

6. 既往災害

・家屋浸水被害	床下	床上	道路冠水
昭和57年 9月(氾濫18号)	17棟	8棟	か所
" 58年 7月(大雨)	5棟	5棟	か所
平成元年 8月(大雨)	24棟	0棟	か所
年 月()	棟	棟	か所
年 月()	棟	棟	か所
年 月()	棟	棟	か所
年 月()	棟	棟	か所
年 月()	棟	棟	か所
・崖崩れ被害 (年 ~ 年)			0件
・火災出火件数 (年 ~ 年)			0件
・1923関東大地震被害			
家屋全壊			0戸
家屋半壊			0戸
被害率			0%

7. 防災基盤施設

消防	0か所	
病院	0か所	
医院	0か所	
休日診療所	0か所	
警察	0か所	警察署 派出所
水防施設 その他の施設	0か所	
・自主防災組織(数)	関沢3丁目自衛消防団 1 (関沢3丁目東町会)	
・自主防災組織参加世帯率	不明 %	
・飲用井戸本数	0本	

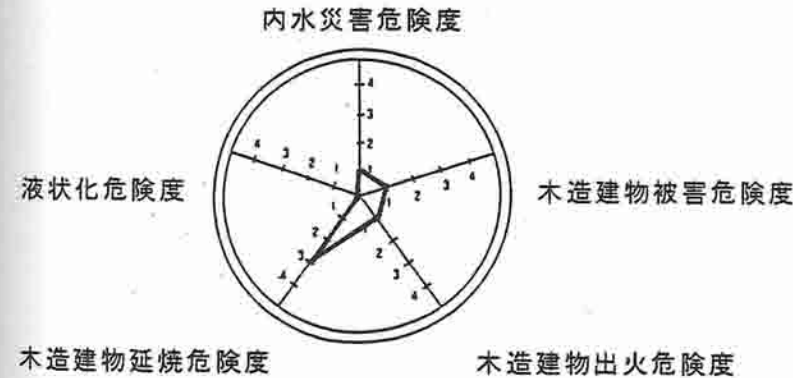
8. 危険度評価

・内水災害危険度	1ランク
・外水災害危険度	0ランク
・土砂災害危険度	0ランク
・木造建物被害危険度	1ランク
・木造建物出火危険度	1ランク
・木造建物延焼危険度	3ランク

地盤	地盤の地震動危険度	1ランク
危険度	液状化危険度	0ランク

※ 危険度評価ランク

危険度	無	微	小	中	大
ランク	0	1	2	3	4



※ 想定震度 5(+) (強震(強))

9. 地盤条件

地盤は、台地部で硬く、低地（唐沢堀沿い）、浅い谷（唐沢堀の上流、富士見江川沿い）で比較的軟らかい。台地部で震度5(+)（強震の強い方）、低地、浅い谷で震度6(-)（烈震の弱い方）の地震が予想される。

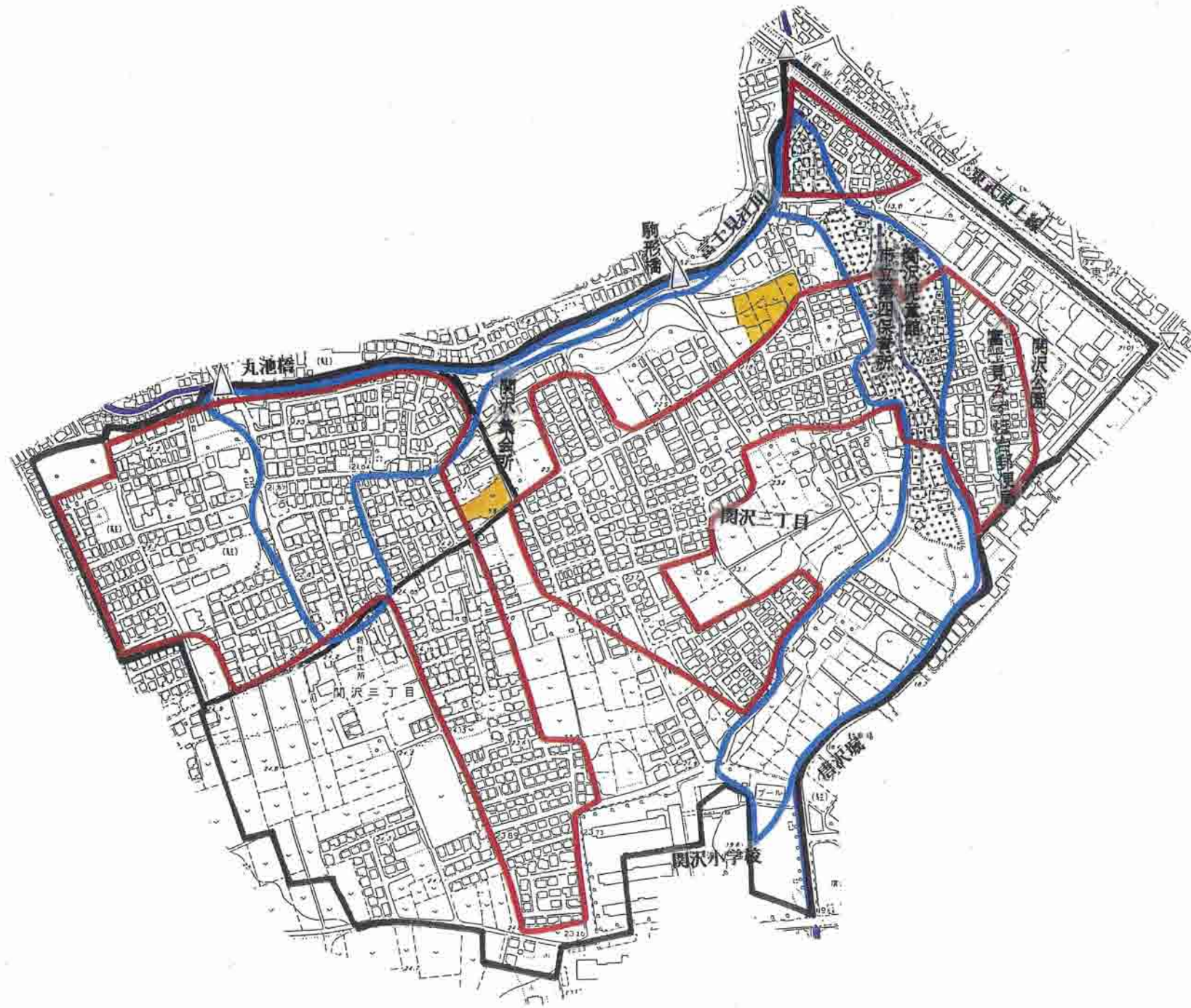
10. 問題点の整理

災害発生要因		災害抑止要因	
1. 内水災害	住宅地内下水路の溢水。 富士見江川沿い、唐沢堀沿いの家屋の浸水被害はそれぞれの河川改修工事が進み少なくなっている。	1. 水防能力	水防施設は無い。
2. 外水災害	無い。	2. 防災組織	関沢3丁目自衛消防団が組織されている。（関沢3丁目東町会）
3. 倒壊危険	台地部では地盤条件が良いので倒壊の危険性は低い。ただし、富士見江川、唐沢堀沿いの古い木造建物は、倒壊の恐れがややあるため注意を要する。	3. 消防能力	世帯数と比較して消火栓数が少ない。住宅地内の生活道路の幅員が狭いため、消防車の消火活動を妨げる恐れがあるので注意を要する。
4. 出火危険	出火の危険性は低いと予想される。	4. 防火能力	木造家屋密集地域の防火能力は低い。
5. 延焼危険	不燃領域率は、50%~70%と見込まれるため、浅い谷にある住宅地で火災が発生した場合、延焼の危険性がやや高いと予想される。	5. 避難収容力	関沢小学校、関沢児童館、関沢公園が町会内に避難所として指定されている。収容力は十分といえる。しかし、関沢小学校は関沢2丁目東町会、関沢2丁目旭町会と共用するため、この町会に災害が発生した場合は、収容力は低くなる。
6. その他の災害	無い。		

11. 解決の方向性

地震火災の危険性は低いと予想されるが、火災が発生した場合を想定して、消防能力、防火能力の向上を図る事が望ましい。
 避難可能な道路は、住宅地、商店街の生活道路が主に使用されるので、生活道路の通行を妨げとなるブロック塀の倒壊や自動販売機の転倒の予防対策の指導が望まれる。
 内水災害は、集中豪雨により唐沢堀（第4保育所付近）で溢水するため、深堀するか、一時貯留する施設が必要である。

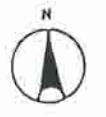
防災現況図A(災害発生要因)



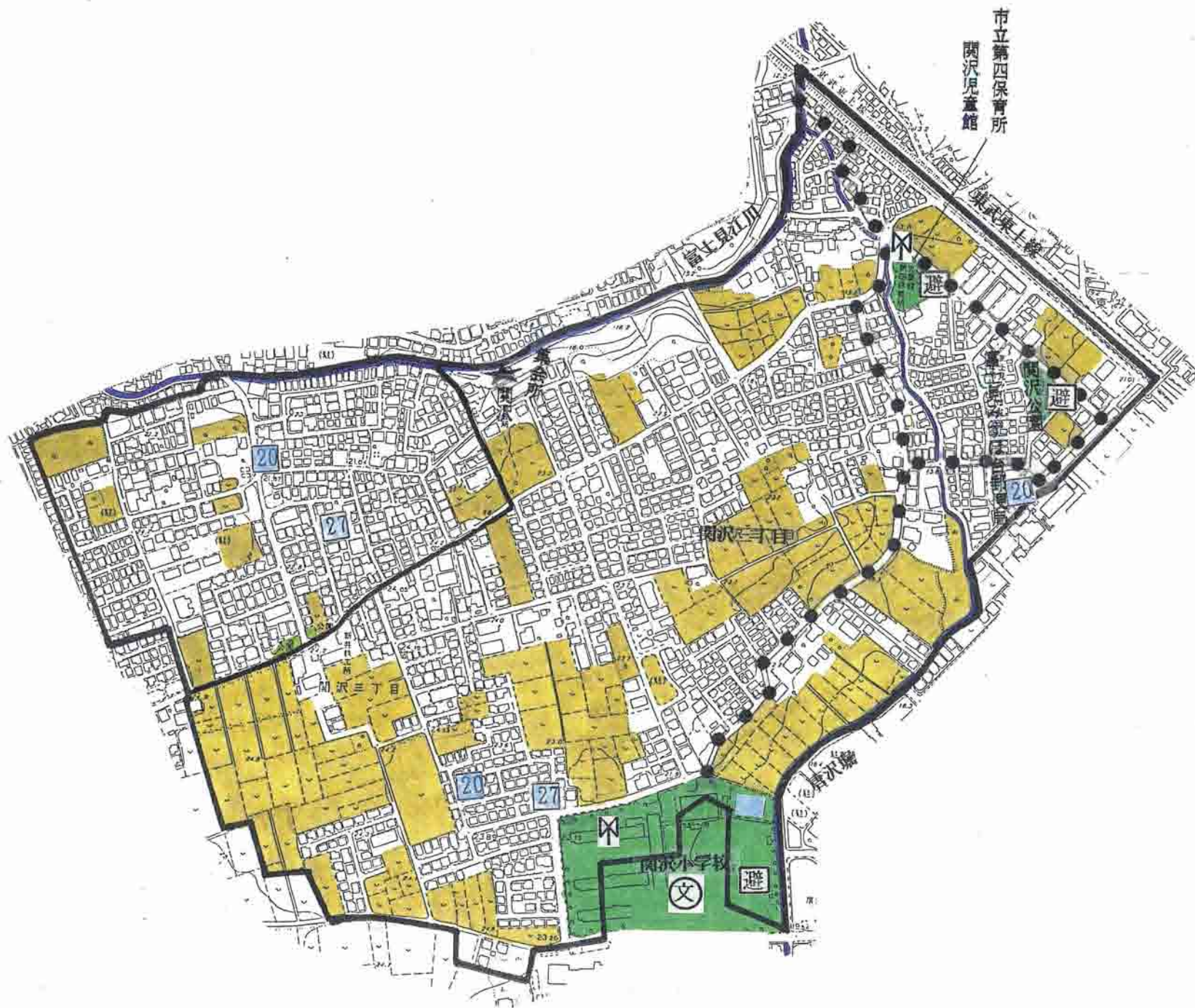
凡 例	
●	給油取扱所
■	一般取扱所
⊙	危険物屋内タンク貯蔵所
⊠	危険物屋外タンク貯蔵所
Ⓜ	危険物地下タンク貯蔵所
▲	L P G 充 填 所
△	橋 梁
▽	横断歩道橋
△	立 体 交 差
⬜	木造家屋密集地域
—	河 川 ・ 水 面
⚠	急傾斜地崩壊危険区域
⬜	盛 土
⬜	浅い谷・低地(谷底平野)

既往浸水域(平成3年台風18号)	
■	田の浸水地域
■	田の被害区域
■	畑の被害区域
■	床上浸水地域
■	床下浸水地域

0 50 100 200 300 400 500m



防災現況図B (災害抑止要因)



凡 例	
	消防署・出張所
	消防団機械器具置場
	水防施設
	防火水槽・プール
	警察署・派出所・駐在所
	市役所・出張所・公民館
	防災行政用無線子局位置
	コミュニティ集会所
	保健所・保健センター
	病院
	医院
	休日診療所
	指定避難所
	公園
	河川・水面
	避難可能な道路
	幅員12m以上の道路
	幅員12m以上の道路 (計画中)
	学校(小・中・高)
	空地・水田・畑

0 50 100 200 300 400 500m

